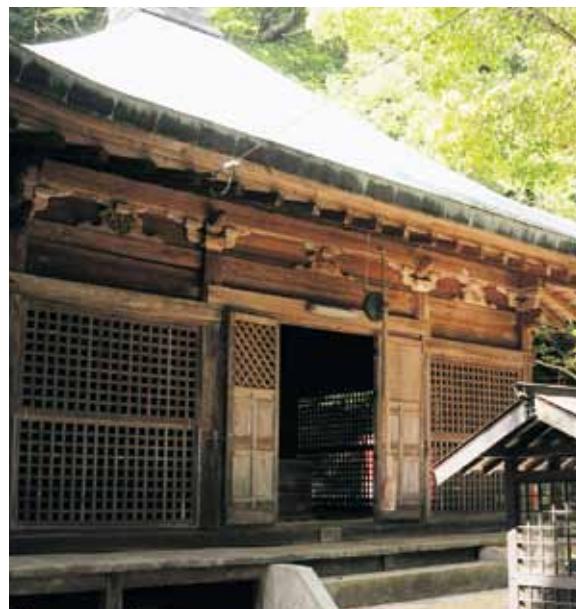


〔九和〕 鍋地・桂 かつら

118 お釈迦さん



鍋地と桂にまたかる山（標高339m）は、駿迦山・蓬莱山・法華山など、仏教によつて名づけられた山である。駿迦堂には、国重要文化財の木造駿迦如来立像（至藏寺管理）があり、4月8日の花まつりには、開帳してお祝いしている。

地元の有力豪族・越智益躬が創建したといふ。本尊の釈迦如来像は像高163cmで材質は栴檀の木でできている。昭和14年に解体修理を行った際、胎内から文永5年（1268）の墨書銘が見つかり、大江氏が先祖供養のため発願し、仏師・薩摩法橋興慶に本像を造らせたことが分かつた。京都嵯峨の清涼寺式の像といふ。

これを納める厨子も材質は栴檀の木で、棟札から正徳5年（1715）に造られたことが分かる。厨子と棟札、および元禄5年（1702）に建立された現在の釈迦堂本堂は、いずれも市指定文化財である。本堂は当初瓦葺きだったが、天保14年（1843）に茅葺きとなり、昭和34年に銅板葺きに改修されて現在に至る。

平安朝頃は、7寺院12坊を從え壮大に栄えていたようだ。しかし、平将門の乱をきっかけに衰退していった。今治藩主松平定陣の再建もあって、江戸時代中期頃から盛んになつた。

119 釈迦堂の森

A close-up photograph of a large tree trunk, likely a maple, showing its characteristic deeply furrowed and textured bark. The trunk is thick and appears to have been partially cut or damaged at one point, with a rough, irregular edge visible. The background is filled with dense green foliage and sunlight filtering through the leaves.

イロハカエデの巨木



ボダイジコは昭和38年玉川町天然記念物に指定

祇迦堂の森は、少なくとも300年以上（元禄15年の祇迦堂再建以降）は木々が伐られていないと推測される。境内を見るだけでも多くの大木、老木が残つていて貴重な存在である。

ボダイジュは目通り約150cm。イロハカエデの老木は見たこともないほど太く、いびつな形をしている。巨大なイチヨウは仲良く2本並んでいる。ムクノキ・クスノキ・エノキ・ヒノキ、桂木神社の横には大きななナギノキがある。その他ウラジロガシ・コガノノキ・バリバリノキ・イヌガシ・カクレミノ・シテザクラン・ヤブツバキ・アラガシ・カツラなど、どの木も大きく風格がある。玉川では檣原山について曰木・古木の宝庫である。主な木々には、名前の札が下げられている。



桂木神社横のナギノキ



双子のイチョウ